



第 56 回 纏向遺跡 その 2

奈良盆地には多くの弥生時代の遺跡があり、これを水系ごとに分けると23のクニ（共同体）に分けることができる。北部九州と異なって戦いによらずに、これらのクニは緩やかに3つくらいの国に統合編成されていった。この統合は政治的というよりは経済的傾向の強いものであった。3つの国とは北の方から、添（そふ）の国、東南部に「やまと」国一後の「大和」の核となる地域、そして西南部には葛城の国があった。このうち「やまと」国の弥生時代の中心は巨大な環濠農耕集落の唐古・鍵遺跡である。纏向遺跡は唐古・鍵遺跡の上流、初瀬川から纏向川をさかのぼった三輪山の麓であり、纏向遺跡が3世紀の始めに建設されると、それまでに存在していた拠点的大集落はどんどん衰退し、奈良盆地の弥生時代社会に大変動をもたらした。

この纏向遺跡では、まず始めに運河が作られた。幅6メートルの大溝の護岸に矢板を並べて、古代の都市を建設するために大量の物資を搬入する目的の運河が作られたのである。遺跡からの出土土器については前号（その1）で触れたとおりである。その他の特徴的出土品は、木の仮面（神の顔・祭祀用）や、弧帯文と呼ばれる直線と曲線を組み合わせた哲学的文様を付けたお祭りに使用する呪具がある。また日本には自生していない紅花の花粉や、最近ではバジルの花粉が発見されている。これらは大陸から特別にもたらされたものと考えられている。

また纏向遺跡は前方後円墳の定形化が起こった場所である。即ち、ホケの山古墳、石塚古墳、矢塚古墳のような前方部が小さく低い（後円部径と前方部長が2：1）最古の前方後円墳を「纏向型」と呼び、この直後に前方部が少し長くなった勝山古墳や東田大塚古墳が登場してくる。そして3世紀中一後葉にかけて、前方部が高く巨大化した箸墓古墳が築造される。つまり、たかだか30年ほどの間に、この纏向遺跡の中で前方後円墳の発生から定形化が起こったことを見ることができる。前方後円墳はヤマト王権の祭祀的・観念的象徴と見なすことが出来、この考えから前方後円墳の広がりかたをみれば、王権とそれ以外の地域との政治的関係の誕生の様相が判ると考えられている。3世紀中ごろの一番古い纏向型前方後円墳は「やまと」を中心として西は北部九州、東は東京湾沿岸まで伝わっている。サイズは纏向遺跡のものが最大であり、他地域のものは大きくてもその3分の2、あるいはそれ以下で規格の差は歴然としている。王権中枢の「やまと」とそれ以外の地方との関係が、このころに列島規模で始まったと考えてもよさそうである。

纏向遺跡では大型建物群の発見も話題となっている。建物は4棟でそのうち3棟は主軸線を正確に共有している。東西から約5度北に振れた線上にきれいに建物が並んでいる。1棟は軸線の南側に井戸がある。北と南は川で遮られており、西側にも川が入ってきている。東側は上ツ道と推定される街道が通っており、建物群の入り口はそちら側にあった。最近の調査では、JR 櫻井（万葉まほろば）線の線路を越えた東側にも1棟、この軸線に乗る建物が出てきた。この居館遺構は100m×150mの範囲にあり、約15,000㎡という広さは古墳時代の首長級の居館としては最大級である。群馬県に唯一、匹敵する広さをもつ例があるが、年代が下がり構造的にも簡易なものである。首長居館の規模のランクも前方後円墳同様にはっきりとしたピラミッド構造をなしており、纏向遺跡の居館は3世紀では最大級の王権を示唆する規模である。

文献的には記紀に初期の天皇、崇神・垂仁・景行の宮都がこの地に置かれていたことが記載されている。すなわち、崇神の磯城瑞籬宮、垂仁の纏向珠城宮、景行は纏向日代宮と伝えられている。「瑞籬」宮は居館遺構が周りを水に囲まれている状況と一致し、「珠城」は水によって運ばれてきた玉砂利の堆積であり、「日代」は檜城で、檜の柱で囲まれたイメージを示している。纏向遺跡の大型建物と環境は、これらの「宮」の命名のイメージと非常に似ていると云える。纏向遺跡は3世紀はじめに忽然として出現した巨大な政治的計画都市であり、列島規模での内外物流の中心になっており、ヤマト王権のシンボルである前方後円墳がここで発生している。3世紀の前半に前述の三要素をすべて供えた遺跡は、日本列島の中では他には存在しておらず、纏向遺跡は現在まで集積された資料による限り、ヤマト王権の最初の大王都であるとみてよいと考えられる。

中国の史書に登場する倭国は、後漢書東夷伝に107年（安帝の永初元年）に「倭国王帥升等が生口160人を献じ謁見を乞うた。」とあるのが最初である。それから70～80年間、つまり2世紀の終わり頃までは安定した状態が続き、そして乱れた。当時の日本列島の状況は伊都国を盟主とした倭国体制であったが、後漢王朝の内部の政治的退廃と北方民族の侵入によって、各地で反乱が勃発し後漢王朝の「桓靈の間」（桓帝・

霊帝の時代)は事実上機能を停止したこと、後漢王朝の冊封体制による後押しをバックにして求心力と政治権力を維持していた伊都国は後ろ盾を失った。それを契機に、自分たちこそ倭国の中心になろうと諸国の王が名乗りを上げだしたのが「倭国乱」の実態であり、そこで諸国が共に一人の女性を立てて王とし乱は終息したのである。

ところで、纏向遺跡は誰が作ったのであろうか？弥生時代以来、奈良盆地にあったクニ・国が統合、発展してやまと王権を作り上げ、纏向遺跡を建設したとは考えられない。考古学的にこの地の弥生時代社会にそれだけの政治・首長の権力は生まれてはいない。唐古・鍵遺跡などでは、文化的・技術的に非常に充実した遺物が出土している。経済活動が活発に行われていたであろうと云うことは判るが、政治的な権力者と思われる首長・王の墓がこの地ではまったくみつかっていないのである。前方後円墳をやまと王権のシンボルとすると、その構成要素を分解してルーツを調べれば、この新しい政治的支配のツールを作り上げた集団の系譜がわかるのではないかと、前方後円墳の属性の分類が行われた。

属性としては首長霊継承、新しい祭祀の舞台、威信財、隔絶性、葬送儀礼の5つを取り上げられた。特に重要な要素は、首長霊を継承するための施設と呪具である。施設とは具体的には巨大な墳墓と郭、大量の朱、覆屋・立石、特殊器台・壺、円礫・礫堆などであり、呪具は鏡などの破碎、巫女形、家形の土製品、弧帯文様などである。前方後円墳はそもそも亡き王の霊を新しい王が引き継ぐ儀式を行う場として誕生したと考えられている。その重要で核心的な儀式に北部九州で始められた要素に、その後新しく勢力を拡大してきた出雲・吉備の要素が付加されたことが解析の結果判明している。特殊器台・壺、巫女形・家形の土製品、弧帯文様、墳丘、供献小型土器などは後に付け加えられたものである。

纏向遺跡出現前夜の二世紀末の楯築墳丘墓には注目すべき点がある。岡山県倉敷市にあるこの墓は吉備の王の墓であるが、径40mの円丘の両側にそれぞれ20mの突出部をもっている。突出部の一つをとれば纏向型前方後円墳の比率と形、後円部の直径と前方部長がきちんと2:1となっている。前方後円墳のルーツはこれであると考えられ、特殊器台や弧帯文、木郭構造のルーツも同じくここであると考えられる。纏向遺跡のホケノ山古墳では、木郭の上を覆う覆屋が復元され、首長霊継承の秘儀を行う際には埋葬施設の周囲に結界を設ける必要があり、これは楯築墳丘墓の立石や平原1号墓の覆屋、出雲の西谷3号墓の墓上建物と同様の意味をもつものである。楯築墳丘墓の弧帯文で巻かれた石に覗く顔は首長霊の顔であり、纏向の木製の仮面に見られる人格化した新しい神の観念に繋がるものである。これらは纏向「王権」の誕生に吉備やその周辺の瀬戸内勢力が重要な鍵を握っていたことを示している。もう一つ、古墳への副葬品として鏡、玉類、武器が重要なセットになっているのは、北部九州の弥生時代のオウヤ王への副葬でいち早く確立されており、また水銀朱を大量に棺に布くことも北部九州で多用された方法である。このことは伊都国の要素も色濃く纏向にもたらされていることがわかる。

日本列島の国家の形成は、おそらく紀元前の「部族的国家」にまでさかのぼるであろうこと、それはまずは北部九州において戦争を勝ち抜き政治的支配を貫徹していくことで獲得していったであろうこと、そして「倭国」と呼ばれるまとまりは、2世紀にまず伊都国を盟主とした北部九州における政治連合によってできあがったと考えられる。それに対して、北部九州以外の地域ではむしろ経済性や交易システムの発展を梃子とした緩慢な部族的国家が形成されていった。それが2世紀末から3世紀初めにかけて、「倭国乱」という政治的な混乱を経て、古い倭国の領域よりもはるかに広い、列島規模の領域が一つのまとまりとなった。それまで各地で独自性をもって行われていた祭りは前方後円墳の祭りに一極化されるようになった。政治と祭祀の一体化、列島規模での中央・地方の政治的関係、そうしたものの変化が部族的国家から王国という次の段階に足を踏み入れたことの証拠と考えられる。3世紀の段階では列島各地の政治的支配は領域支配として貫徹されてはいず、点的な合意も政治的合意も多かったものと思われる。しかし、王権とは「王国段階の政治支配権力」を意味するとすれば、王権の誕生は纏向遺跡の出現とともにあったと考えられる。

やまと王権とは、(伊都)倭国から倭国乱を経て新しく生まれ変わった「新生倭国」のことであり、それが卑弥呼の政権であった。倭国乱からの脱却は卑弥呼の共立というコンセンサスによって成立しており、この新王権の誕生は列島規模の政治的談合の結果であった。その談合のイニシアティブを握ったのは、北部九州や瀬戸内海沿岸地域のクニ・国であった。

(岡野 実)